

スイス Dr. Wild 社 訪問記



メディカルアロマセラピスト
歯科衛生士 白水 雅子

皆さんは、スイスといえば何を思い浮かべますか？高級腕時計メーカーやチョコレートは定番ですが、モンブランやマッターホルンといった名峰を選ばれる方も多いのではないのでしょうか。四方をドイツ、フランス、イタリア、オーストリアに囲まれているスイスは、ヨーロッパの中心に位置し、多くの芸術と自然にふれることができます。今回、クロスフィールド(株)社を通じて1月末から2月にかけて、スイスを訪問した際のお話をご紹介します。

私はアロマセラピーをはじめとする植物療法や自然療法を約20年間学び続けるうちに、いつかスイスを訪ねたいと思っていました。その理由は、スイスにはNaturheilpraktiker、ドイツではHeilpraktikerと呼ばれる自然療法士という職業があるからです。(日本では馴染みが薄いですが、この他の日本語訳として補完代替医師、治療師とも呼ばれています)

近年、国内の化粧品や日用品では「オーガニック」や「ボタニカル」という商品が売れ行きを伸ばしています¹⁾。世界ではオーガニック・ナチュラル認証基準が存在しますが、日本には認証制度がありませんでした。その後、2018年4月に日本化粧品工業連合会において「ISO 16128 化粧品の自然・オーガニック指数表示に関する業界ガイドライン」が制定されました。このような背景があるなか、一般流通している口腔衛生品にも自然派と謳う商品が増え、患者ニーズも高まっているように感じています。

歯科臨床の場では、歯科衛生士の予防業務は多岐にわたり、その中でも生活習慣病への健康づくりに関する対策は喫緊の課題ともいえます。予防医学で大切なことは、健康なうちから病気になりにくい心身を育むことが重要で、そのためにな

るべく身体に負担をかけない方法を選択すべきだと考えられています。今回訪問した際に、そのヒントがヨーロッパの自然療法にたくさん散りばめられていることを実感しました。

今回スイスの地で、美しい自然とキレイな水、そして自然療法の考え方から生まれた口腔衛生品工場 Dr.Wild 社を訪れました。そこには、精油成分(ティーツリーオイル)

が主成分となった商品が並び、スイスの自然療法という考えが脈々と受け継がれていました。精油とは自然植物の香り成分が凝縮した液体のことで、花や葉、果皮、根、皮などから抽出します。薬用植物や生薬、漢方薬と同じように自然界から得られる純粋な精油の活用は、アロマセラピーとして知られていますが、まだまだ日本では世界の予防医学において、どのように用いられているのか深く知られていないように感じます。

その後、スイスの歯科医院やベルン大学を訪問し、数々の論文を紹介して頂くうちに、ただ自然派というスタンスだけではなく、現代医療としても有益であることを痛感しました。今回のスイス訪問時に得た知識を、これから予防医学の知見を深めようとする方々に、有益な情報としてお届けできればと願っています。

1) <https://www.ryutsuu.biz/commodity/k072716.html>



Dr.Wild 社の本社工場前



Dr.Wild 社工場内の様子



スイスの歯科医院にて



ベルン大学 Anton Sculean 教授の研究室にて